

TAIWAN INTERNATIONAL BOAT SHOW 2014

2014.5.8(Thu)-11(Sun) By Regar Marine Report!!



photo&text 提供 (株)リガーマリンエンジニアリング 三重県いなべ市大安町南金井1732番地 TEL : 0594-87-0200 URL : www.regar.co.jp/



2014年5月8日(木)から11日(日)にかけて台湾では初となるTAIWAN INTERNATIONAL BOAT SHOWが高雄市Kaohsiung Exhibition Centerにて開催された。元々造船業では世界でも屈指の台湾ではあるものの、国内でのマリンレジャーは発達しておらず、マリーナ施設もほとんど皆無の状態ではあるが、台湾、高雄市、各造船業者、まさに官民が一体となり開かれたボートショーであった。まず圧巻だったのが屋内展示で110ftが展示されたところにある。この船は、何と陸上輸送でエキシビジョンセンターに運ばれたそうだ。エキシビジョンセ

ンター自体もこの4月にオープンしたばかりでおそらくこの110ftも見越して建造されているのだと思う。まず日本では考えられない。日本では考えられないという点でもう一つが客層である。ほとんどが家族連れ。元々マリンレジャーが根付いているわけではないため、ボートを背景に写真を撮るのが目的のようで、各船の前には写真待ちの長蛇の列ができていた。長いものだと1時間以上待っていたようで、ある意味テーマパークのようだった。正直そういった状況だったので写真を撮りたくても撮れない状況が続いた。ボートオーナーやディーラーは別口

からの入場が許されるところが多くその点では助かったのだが、船自体もサロン型のものが多く、フィッシングボートとしてはNISSAN MARINEのWING FISHERを含め数艇の展示のみという状況で、日本と台湾や上海といったアジア諸国とのボートショーの違いを感じた。用品のフロアにはアメリカのパビリオンやオーストラリアのコーナーがある等、国際色が豊かであった。日本のメーカーが直接出展はないものの、代理店の出展が数社見られた。MANやCATなど大型のエンジンも展示されており、造船大国ならではの展示であろう。台湾メーカー

ではメガヨットなどで使われているステンレス用品製造のARITEXをはじめメガヨット向けの用品が多数展示され、さながら欧州のボートショーのようだった。「日本でもこれぐらいの…」とは思ものの、業界を眺めていると中々現実的には厳しいように感じる。次回は2年後の開催が予定されているようだが、台湾でのボートショーが回を重ねるにつれて、アジアだけではなく世界を代表するボートショーになっていくんだろうと感じられるすばらしいショーだった。今後も大きく進化し続ける台湾のボート事情をしっかりと注視していこうと思う。